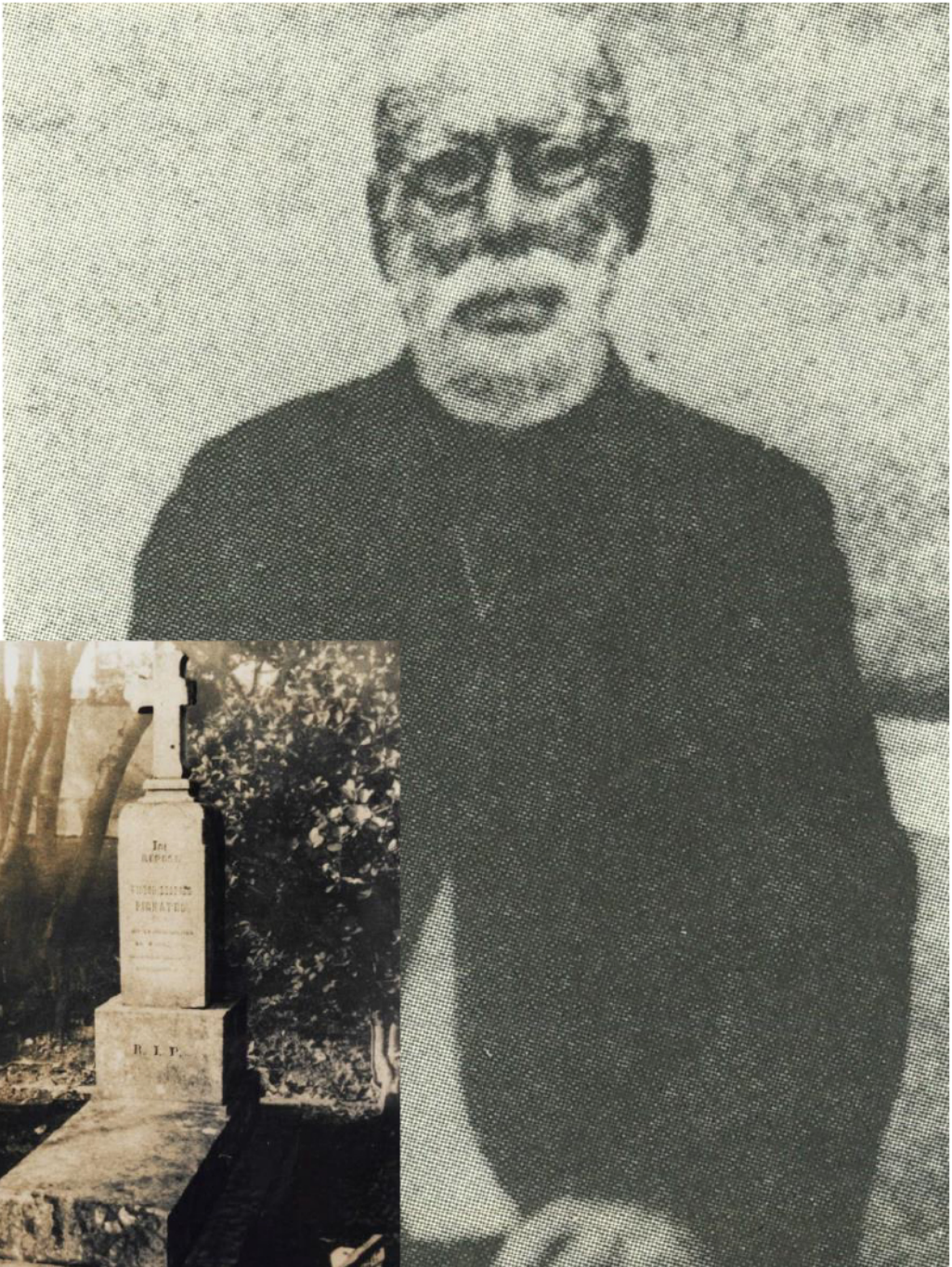


# ヴィクトール・ピニヤテル(1846~1922)



←ピニヤテルの墓  
長崎歴史文化博物館蔵

リオンに生まれたヴィクトール・ピニヤテル(Victor Pignatel)は1861年に来日、出島5番地で父とともにピニヤテル商会を設立、父の死後も雑貨貿易商を営んで事業の拡大にいそしんだ。

そのような中で訪れた丸山遊廓の遊女・正木との出会いは彼に大いなる幸福をもたらした。正木を身請けして始まった新しい生活であったが、彼女は若くして病に倒れる。正木の死後、事業意欲を失い身なりに気を払うこともなくなった彼は「西洋パンザ(乞食)」と渾名されながら、長崎で悲しみの日々を過ごし1922年に生涯を閉じた。

愛する人との追憶の中に生きたピニヤテルの生涯は斎藤茂吉・古賀十二郎ら長崎で活動した文士たちによって随想され、語り草となった。